

次号予告

特集 筋トームス異常と不随意運動

不随意運動の発現機序.....	自治医大内科	吉田 充 男
不随意運動の臨床.....	名大内科	真野 行生・他
アテトーゼに対する理学療法.....	宮城県立整肢拓桃園	渡辺 洋
〃 作業療法.....	のじきく園	森下 孝 夫
パーキンソンに対する理学療法.....	高知リハ学院	中屋 久 長

とびら 大きな幹を目指して..... 中央鉄道病院 高梨 美和子

講座 運動学シリーズVI：足関節の

運動学(1).....	板橋ナースিংホーム	丸山 仁 司
-------------	------------	--------

研究と報告 重度女子脳性麻痺者における下肢を使用しての

家庭生活自立の可能性.....	都心身障センター	寺山久美子・他
変形性股関節症の評価と股関節全換術後の		

理学療法について.....	兵庫リハセンター	藤林 英樹・他
---------------	----------	---------

メディカル ラジオアイソトープによる四肢循環の評価2：

プログレス 循環障害肢における切断レベルの決定.....	帝京大整外	岩倉 博 光
CTスキャン.....	名大内科	真野 行 生

Q and A 「今年のOT学会の特色、抱負などをお聞かせ

下さい」.....	Q：古川良三・A：宮地昭郎
-----------	---------------

本の紹介 中村裕監修「身体障害者とスポーツ」.....国立身障センター 橋倉 一 郎

佐々木智也編「リウマチ学」.....	自治医大	大井 淑 雄
--------------------	------	--------

編集後記

朝日新聞の日曜版に米国の有名なリハビリテーション専門医の印象記が載ったことがある。彼とて日本全国のリハビリ施設をくまなく視察した訳ではなさそうだが、現在の日本のリハビリは米国の35年前の状態と同じだという。過去10数年日本のリハビリも一歩一歩前進し、先進国への仲間入りも、と考えていた矢先の厳しい戒めである。欧米諸国と比較して日本のリハビリがそんなに遅れているのだろうか。遅れていると言わしめる根本的な原因はどこに宿っているのだろうか。彼の言を待つまでもなく、確かに専門医も少く、また専門医の教育制度也未確立である。更に、セラピストの教育も改善策が遅々としている状態である

う。しかし、医療に直接かゝわる専門家の養成制度が変革されれば問題が解決されるというものでもなさそうだ。専門家の教育制度をより理想的に確立させることゝ相俟って、真のチームメンバーとして相互の専門を尊重し、認識し合えるような状態にまでなくてはならないと思う。そのような我々自身の体制が整ってはじめて社会一般の人々にも理解を深めさせ、リハビリに対する協力も得られ易くなるのではなかろうか。

今号は「レクリエーションとスポーツ」を特集したが、これ等が身障者に対するかわり方も上述したことゝ原則的には同じである。医療従事者間のそれぞれの専門に対する理解の違い、治療者と患者とのかゝわり方における問題点のいくつかを今号で教えられた。(谷岡 淳)

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院長
五味 重 春
府中リハビリ学院長
砂 原 茂 一
国立療養所東京病院長
津 山 直 一
東京大学教授・整形外科
水 野 祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部
荻 島 秀 男
都養育院リハビリ部
佐 藤 馨
神奈川リハセンター
鈴 木 明 子
府中リハビリ学院
谷 岡 淳
自治医科大学
寺 山 久美子
都心障センター
福 屋 靖 子
松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

明 石 謙
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
大 橋 博
鎌 倉 矩 子
紀 伊 克 昌
小 林 夏 子
駒 沢 治 夫
佐 藤 剛
田 原 澄 彦
富 岡 詔 子
奈 良 勲
藤 沢 しげ子
藤 本 欽 也
前 田 守
松 本 妙 子
矢 谷 令 子
山 下 隆 昭
横 山 巖
和 才 嘉 昭
(担当 細田)